

実績報告書 (4頁程度を目安に作成してください。)

<p>静岡県 三島市立徳倉小学校</p>	<p>実施学年： 6年 児童数： 71人(3学級) 実施教科等： 総合学習・国語・社会・図工 実施時間数： 15時間</p>
<p>実施／参照プログラム</p>	<p>No. 三島の未来を考える景観プランナーになろう オリンピック・パラリンピック誘客活動を通して～</p>



●学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

<p>学習のねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●三島市の自然や景観の特徴、オリンピック・パラリンピックに向けての取り組みについて情報収集したり、「これからの三島の未来」について、自分が感じ取ったことや考えたことを用いて適切に表現したりする力をつける。 ●景観を維持・改善の工夫やオリンピック・パラリンピックの誘客を通して三島の伝統を守ったり、新しい取り組みをしたりするなど、尽力している人を知ること。
<p>学習活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な物や人との関わりの中から課題を見つけ、集めた情報を分析しながら追究していく。(主体的な学び・思考ツールの活用) ●既習学習の知識や技能を生かして、さらに追究するための方向性を決め、見通しをもって根気強く学び続ける。(目的意識・相手意識など) ●地域の景観や観光の取り組みについて学び、主体的・協働的に課題解決をしていく。 ●三島の未来を考える一員として、伝統や文化を守り続けたり、自分たちにできる新たな取り組みを提案したりする。
<p>準備品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタルカメラ ● パソコン ● 動画録画用 Gopro カメラ ● 電子黒板 ● 360度カメラ THE TA ● 筆記用具 ● タブレット ● ノート ● 取材先パンフレット等

実施場所 ● 教室 ● パソコン室 ● 三島駅周辺施設など

●学習の流れ (適宜行を増やしてください)

	場所	概要	活動記録	児童の反応
2時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 三島市の景観づくりについて学び、オリンピック・パラリンピック誘客の学習と照らし合わせながら、学習の目的を共有する。 ● 景観プランナーとしての活動計画を立てる。 ● アドバイザーさんを招き、目的に合った動画の撮影の仕方や、取材方法について助言をもらう。 	 <p>パワーポイントを使って「景観」のイメージを共有した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「景観って何？」イメージマップを使うことで、「自然」「歴史」「観光」「資源」などを想起していた。 ○ オリ・パラ教育で学んだことを生かすため、誘客を目的に、観光ガイドブックを作ろうと発案した。 ○ 取材場所を決め、誰に、何を、どんな風に伝えたいのかを考えた。
2時間	三島駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ● 取材場所に行き、情報を集める。各クラスで共有ができるように、取材先1につき各学級1班ずつ行う。 ● THEETA (360度カメラを使う班は、アドバイザーさんに参加してもらう。 ● 社会科「私たちの生活と政治」の学習から、三島市の暮らしを豊かにする政策を知る。 ● 取材先にそれぞれ担当者をお願いし、質問に答えてもらう。 ● ガイドブックに必要な写真や動画を積極的に撮影してくる。 	  	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際に目的をもって「景観」を調べることで、市民が守る景観として意識できるようになった。 ○ 都市計画課の職員に話を聞き、「ガーデンシティ三島」や電柱の地中化など市の取り組みが分かった。 ○ 現地でふるさとガイドに説明してもらうことで、源兵衛川や小浜池など自然の景観を守る人がいると知った。 ○ 商店やホテルで働く人に話を聞き、三嶋柄や三島西麓野菜などの観光資源を景観として考えていることを知った
2時間	教室 パソコン室	<ul style="list-style-type: none"> ● 集めた情報をKJ法を使って分類し、フィッシュボーン図を使って整理する。 ● ワードを使って、写真や文字を入れガイドマップの原稿としてまとめる。 ● 必要な情報を、キーワードを使って分かりやすくまとめた。 ● スクラッチを使って、英語や韓国語などの説明文をつくる。 	 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集めた情報を、どのように整理したらまとめやすいのかを、既習学習から考え適切な思考ツールを使っていた。 ○ 原稿を書いていくうちに、オリ・パラ目的で観光に来た外国人には、音声での外国語の説明が必要ではないかと気付いていた。 ○ 写真だけでは「美しい景観」としてのインパクトが弱いことに気づき、動画に編集しようと気付いた。

	場所	概要	活動記録	児童の反応
3 時 間	教室 パソコン室	<ul style="list-style-type: none"> ●ムービーメーカーを使って写真をつなぎ合わせ、動画を作った。 ●できあがった原稿を、三島市商工観光課、都市計画課、アドバイザーに見てもらい、修正点や改善点を教えてもらう。 ●ガイドブックのサイズに合わせた情報量にするために工夫できることを考える。 ●ページ内に載せきれない情報は、動画やワードを使ってまとめ、QRコード化する。 ●図工「風景画」を描いた。 	 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 景観の美しさをよりよく発信しようと行動した。 ○ アドバイスを生かして、地図や情報を生かそうと、友達と一緒にアイデアを出し合うようになった。  <ul style="list-style-type: none"> ○ オリ・パラ教育推進授業で活用していた。(アメリカ男子バレーボールチーム監督にzoomで、三島の景観について英語で伝えた。)
4 時 間	三島駅 周辺	<ul style="list-style-type: none"> ●「三島の未来を考える景観プランナー」として、再度フィールドワークを行う。 ●気付いたことから自分の考えを照らし合わせ、提案するための軸を見つける。 ●国語「日本の魅力、再発見」を「三島の魅力、再発見」とし、提案文の構成をする。 ●提案文を友達と読み合い、班の提案として発表するためにパワーポイントにまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 三島の未来は景観を守っている市民の思いを取り入れることが大切だと気付いていた。 ○ 人の流れを商店街に集めるために工夫できることや、自然保全のために努力できること、野菜を使った料理を提供したり、特色を生かした観光資源を有効活用したりする方法などを考えた。(新しい課題を見つけ、課題解決する力)
2 時 間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●提案内容を、地域の大人の人などに発表する。 ●提案を聞いた大人からの感想を聞き、自分たちの発表を振り返る。 ●市民の願いや自分の思いを重ね合わせたことで、地域の一員であると実感する。 	 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会に向け、協働的に取り組むことで課題解決ができる。 ○多くの人に伝えることができ、みんなに「景観」を考えるきっかけを作ったことが自信になっていた。 ○学習する前の自分と比較し、自分の成長を感じ自己肯定感を高めていた。 ○景観学習に取り組んだことで、三島の未来を考えることが、これからの自分の生き方に繋がるということに気付いた。

●児童の作品

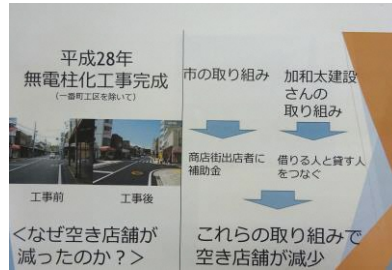
☆国語科・図画工作科をカリキュラムマネジメントしながら景観学習とタイアップさせた。

- ・風景画（課題を見つけたり、ガイドブックに取り入れたりした）



・ガイドブック

・提案のパワーポイント（ZOOM 会議システムによる発表で共有資料）



●先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 2ヶ月の休校後のスタートだったので、当初の計画から大きく変更が生じ、時間配分が難しかった。思い切って、景観学習を軸にキャリア教育を兼ね、他教科とのカリキュラムマネジメントを行うことで、授業時数の確保ができた。
- コロナ渦に2回の市内フィールドワークを計画・実施するのは勇気が必要だった。
- 学習指導や授業と並行して取材先や専門分野の大人の方の日程を確保する、取材先までのバスの増便手配など、同時進行する準備が大変だった。
- 動画撮影機器や手段など、専門的知識のあるアドバイザーがいたことで、動画のQRコード化や360度カメラの活用などの技能が身についた。
- 5年生からプログラミング学習や「三島で働く大人」の学習に取り組んでいたことで、既習学習を生かすことができた。

【児童の反応】

- 「景観」は、風景だけでなく、観光資源や未来に残したい大切な物につながるということに気づき、「自分たちにできることは何かないだろうか。」という新たな課題をもち、追究していく意欲をもつようになった。
- 市民が大切にし、愛している三島の街をこれからも地域の一員として大事にしていきたいという気持ちが芽生えた。

【教師の変化】

- 児童の学習課題を解決するためには、三島の景観や景観を大事にしている大人と児童をつなぐ必要性を感じた。
- 学習環境や状況の変化に対応するために、カリキュラムマネジメントを行うことで、他教科との関連性や、学習活動の広がりを感じた。